

## 研究構造図

### 学校教育目標

緑広がる 大地の中で  
夢をいだき 未来を拓く 豊幌っ子  
・かんがえる子 ・たすけあう子 ・たくましい子

#### 【今年度の重点目標】

『今までの本校の取組を継続しつつ、活動を通じて表現力に磨きをかける』

#### 【研究主題】

言葉を通じて自らと向き合い、共に高め合う子どもの育成  
～「言葉」を大切にした国語科の実践を通して～

#### <目指す子ども>

- 自ら考え、思考力や表現力を高めながら主体的に学ぶことができる子
- 学び合いを支えるコミュニケーション力を、友達との関わりの中で高め合いながら学ぶことができる子
- 知識や技能を生かして粘り強く考えながら意欲的に学ぶことができる子

#### 研究仮説 ①

国語科授業の「書くこと」の活動において、教師が「わかったこと、考えたこと」を学習シートやノートに書かせる活動を繰り返し実践させることにより、児童が、自分が相手に伝えたい内容がよりよいものになることを実感させることで、言葉による表現活動に、主体的・意欲的に取り組めるようになるだろう。

#### 研究仮説 ②

国語科授業の「書くこと」の活動において、教師が「児童が自分の考えをノート等を書く時間」を保証し、「対話する場面」を計画的、意図的につくる学び合いの場を設定することにより、児童が、友達と「言葉」を通して考えを伝え合う「よさ」を実感させることで、学び合いを支えるコミュニケーション力を育むことができるだろう。

#### 研究仮説 ③

国語科授業の「読むこと」の活動において、教師が、「何が」「いつ」「どのように」変容したのかを、子どもたちが「知りたい」「学びたい」となるよう学習過程を工夫することにより、児童が、根拠となる「言葉」を手がかりにして読み取れることを実感させることで、思考力や表現力を高めながら学ぶ力を身につけることができるだろう。

#### 研究内容 ①

- 主体的な学び「書くこと①」
  - ・子どもの言葉の力を伸ばすための音読と視写
  - ・聞き手・話し手の育て方
  - ・他者への伝え方の工夫 など

#### 研究内容 ②

- 対話的な学び「書くこと②」
  - ・場の設定（いつ、何のため）の仕方
  - ・学習形態（ペア、一斉、ノート展覧会等）の工夫
  - ・学び合う集団としての活動のさせ方など

#### 研究内容 ③

- 深い学び「読むこと①」
  - ・思考力・表現力を高めるための知識・技能の習得
  - ・自ら探求したくなる学習課題、導入の設定 など